

2022（令和4）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492601925	事業の開始年月日	令和3年4月1日
		指定年月日	令和3年3月30日
法人名	株式会社エクシオジャパン		
事業所名	アクア陽光台グループホーム		
所在地	(252-0226) 神奈川県相模原市中央区陽光台3-20-31		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和4年12月9日	評価結果 市町村受理日	令和5年6月12日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

2021年4月に開設しました。地域や関係者の方々のごく自然に繋がった安心できるグループホームを目指しています。
私たちは、入居者の皆さまが、安心して毎日その人らしく生活が継続できる様に寄り添いながら支援するとともに、ご家族・ご関係者・地域の人、すべての人に丁寧に対応することを目指しています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年1月10日	評価機関 評価決定日	令和5年5月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所はJR相模線「上溝」駅徒歩15分、横浜線「相模原」駅より最寄りバス停「光が丘小学校前」徒歩5分又は小田急線「相模大野」駅より最寄りバス停「光が丘大通り」徒歩5分のところにあります。バス大通りから、やや入った住宅地の一角にあります。開設後1年余、建物は真新しく瀟洒な2階建て2ユニットです。入り口ではプランターで育てた四季折々の花が迎えてくれます。

<優れている点>

事業所の理念は「目指す施設」と置き換え、「私たちを含め利用者、家族、関係者、地域の人、全ての人に丁寧に対応する」です。利用者一人ひとりに寄り添い、その人らしい生活を送れることをモットーに「目指す施設」の実践に努めています。法人の年間研修計画や事業所の月次研修計画が充実しています。新人の研修から、リーダーや管理者、年代別、無資格者、ステップアップ研修など、きめの細かいカリキュラムがあり、人材の育成やサービスの向上に積極的に取り組んでいます。食後、利用者は居室で休む人やリビングで利用者同士の会話を楽しむ人、職員と談笑する人、新聞のスクラップ作りに励む人、テレビに見入る人など利用者それぞれが自由な時間を過ごしています。

<工夫点>

利用者の楽しみである食事は、食材やメニューは仕入れ先を2社から仕入れ、それぞれの特色を生かしたメニューで食事を楽しんでいます。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	アクア陽光台グループホーム
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	目指す姿として『私たちは私たちを含め、利用者・家族・（この施設の）関係者・地域の人、すべての人に丁寧に対応する』を事務所に掲示しています。	事業所の理念は「目指す施設」に言いかえて掲げています。利用者が家族の一員として、安心してその人らしい生活を送れることをモットーに目標と合わせて実践に努めています。各事務所に掲げ、職員は共有しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍の中、地域交流は積極的にできておりません。つながりが途切れないうちに自治会長や民生委員、地域包括センター、近隣の福祉施設等の関係者と不定期ですが情報交換しています。	開設後コロナ禍中となり、地域との交流を模索中です。近くには小学校や保育園、児童養護施設、スーパーマーケット、ドラッグストアなどの社会資源があります。地域密着型事業所の一つでもあり、コロナ禍の終息後は積極的に取り組む予定です。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	問い合わせに対してはわかり易い言葉で説明をしています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	書面会議での開催となっています。	構成委員は2ヶ所の町内会長、民生委員、地域包括支援センター担当職員、入居者家族です。コロナ禍の現在は書面会議となっています。おおむね2ヶ月ごとに1回行っています。内容は運営や活動状況、感染症予防などの意見交換です。議事録はメンバーに送付し、内容を共有しています。	コロナ禍の終息後は地域の有力なメンバーを介して行事やイベントの紹介、ボランティアの招聘、事業所から地域への情報発信などで地域との交流の道が開かれることが期待されます。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	生活支援課、福祉基盤課、高齢・障害者相談課などと連絡を取りながら、成年後見制度や感染対策を進めております。	運営推進会議の報告や介護認定の申請代行、困難事例の相談、ケースワーカー、成年後見など行政と連携を取っています。相模原市のグループホーム連絡会に参加し、情報交換を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	拘束は犯罪であるという認識し、日々ケアに取り組んでいますが、講習会や勉強会の機会が少なく学んだ情報や知識を施設内で共有する仕組みができていません。	事業所の方針は運営規定にも明記しています。研修は年間計画に沿って行っています。職員は身体拘束の弊害について理解しています。身体拘束適正化委員会は法人が設置し、事業所では準備中です。年1回自己チェックシートでふり返し確認をしています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待につながる恐れのある不適切なケアについて資料を配布し、情報共有できる様努めています。	虐待防止の方針は運営規定にも記載しています。事業所の虐待防止委員会は現在準備中です。身体拘束同様に自己チェックシートで振り返りを行い、虐待のないケアに努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	支援を必要とされる利用者様の状態や様子を見過ごしてしまうことのないように、高齢・障害者相談課の担当者の方々へのご連絡とご相談を適宜行い、問題が滞留しないよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	難しい内容も包括されているので、誤解を生じない様に納得がいくまでお話しさせて頂いています。また、必要に応じて専門部署の担当より、時間を掛けてご説明しご理解頂けるよう努めています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	電話や面会時に忌憚ないご意見を伺い、職員共通の認識を持つことに努めています。	家族との面会はコロナ禍で自粛中です。家族とは電話を利用してコミュニケーションを図っています。毎月「アクア陽光台たより」を発行し、利用者の活動状況を知らせています。家族から、写真の肖像権などの意見があり、配慮しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のフロア会議では、前以て全員から意見を寄せてもらい検討をし、リーダー会議に上がった項目については職員へのフィードバックを行っています。	フロア会議やリーダー会議、個人面談の時に意見、要望などを聞く機会を作っています。管理者は日頃から職員の意見や要望が言える職場環境を作っています。事業所の行事やイベントなどの企画提案を運営に活かしています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は個々の職員とのコミュニケーションを図り、定期的あるいは必要に応じた面接を行って、職場での問題や不安の解消に努めています。	職員の日頃の仕事への努力や成果は人事考課に適正に反映しています。有給休暇の取得は計画的に消化していません。シフト作成にあたり、職員それぞれの諸事情を配慮して作成しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	本社教育研修課が中心となり、管理者研修やリーダー研修を計画し開催している。	法人主催の研修計画及び事業所の月次研修計画があります。新人の研修から管理者やリーダー、年代別研修など、きめ細かなカリキュラムがあります。職員の専門知識の向上、スキルアップ、人材の育成に積極的に取り組んでいます。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	相模原市グループホーム連絡会と神奈川県認知症高齢者GH協議会に加入しています。参加や相互交流にて得た情報を、法人内5施設の事例検討会にて共有しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面談により状態を把握し、ご本人やご家族の要望などを聞き取りして、ご本人には安心して生活して頂ける様に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前面談により状態を把握し、ご本人やご家族の要望などを聞き取りして、ご本人には安心して生活して頂ける様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人やご家族との話し合いの中で、先ずどのような支援が必要なのかを見極め、サービス内容の調整を行い、提供できる様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	支援をしてあげていると云う意識を持たず、家事等を協力し合って行い、他者とも和やかに生活できる様に心掛けています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の面会時にはご様子などを丁寧にお伝えし、また質問にも応じる等、信頼関係を築けるように努めています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族を通してご本人の生活歴等を伺いながら、ご本人に寄り添った支援を心掛けています。また、感染対策のご協力をいただきながらご家族との外出の機会を支援しています。	職員は馴染みの人や場の大切さを理解しています。コロナ禍は外出を自粛していますが、家族の協力で墓参りや馴染みのところに一緒にでかけています。うな井やせんべいなどの嗜好や、趣味の新聞のスクラップ作りなど、継続できるよう家族の協力のもと支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の関係性について、スタッフで共有し注意深く見守りを行い、円滑に生活が営めるように努めています。また、個別にお話しを伺い、孤立しない様に支援することを心掛けています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	お手紙やその他の機会をとらえて、ご本人の様子などを伺い、ご家族のお話し相手、ご相談の受け皿になるよう努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の関わりの中で、会話などコミュニケーションを密に取りながら把握に努めています。また、ご家族や関係者からの情報を得る事も大切に受け止めています。	アセスメントや日常生活の関わりの中で利用者の思いや意向を把握しています。相性の合う職員との会話で把握しています。意思表示の困難な利用者は表情や態度、生活歴、家族の協力でも得ることもあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人はもとよりご家族の協力を頂きながら、継続的な把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者お一人お一人の生活リズムを大切に、日々変化する状態の把握に努めています。できる事、できない事を正確に理解し、できる事への働きかけに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人やご家族の思いと意見を正確に聞き取り、職員全体での意見交換やモニタリングを行い、カンファレンスを実施しています。	長期目標1年、短期目標6ヶ月の介護計画を作成しています。個人記録に介護計画を明示し、実施項目を記して現状を捉えモニタリングに繋げています。家族の意向も把握し医師などの関係者とも話し合い作成しています。状態の変化がみられた際は随時見直します。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	職員の気づきやご本人の状態の変化は逐次、支援経過記録に記載して朝礼時に職員間の情報の共有を図り、フロア会議においては意見交換を行って介護計画の見直しの資料としています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人の状態やご家族の意向に配慮しながら臨機応変に対応できるように、スタッフも柔軟に対応することに日々努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の行事への参加、隣接した農園活動など、ご本人が積極的に参加できる機会を捉えて、支援に努めています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	施設の協力医の往診のほか、必要に応じて、ご本人やご家族の希望に添った受診や通院への対応を行っています	ユニット別に内科の協力医が月2回来訪し利用者全員が受診しています。精神科もあり必要時に往診してくれます。歯科医や訪問看護師が週1回来訪し治療や健康観察をしています。専門医への通院は家族が対応し支援経過記録で情報を共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に一度、訪問看護師に日常の個々の状態や変化を報告書し、健康管理、医療面での相談、助言、対応を行って貰っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関への情報提供をしっかりと行い、またご家族とも回復状態やご本人の様子について情報交換をしながら、速やかな退院支援に結びつくよう支援しています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人やご家族の意向を踏まえ、医師、看護師、介護職員が連携を取りながら、安心して且つ納得のいった最期を迎えられる様に取り組んでいます。	入居時に「重度化した場合及び看取りの対応に関する指針」で事業所の方針を家族等に説明し同意を得ています。医師が終末期と判断した際は医師が家族等に説明し延命措置などの確認をして方針を共有しています。看取り介護を実施する際は研修を行う意向です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	AEDを設置しました。研修や消防署の協力による訓練を通し、救急手当や蘇生術の研修を行っています。全ての職員が落ち着いて緊急時の対応ができるよう努めています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアルの整備、防災研修会、訓練を通して職員全体の意識を高めると共に、災害時用備蓄品を確保しています。	ハザードマップで事業所の災害リスクを確認しています。法人で事業継続計画の作成を検討しています。「防災備蓄用品チェックリスト表」で飲料水、食料、カセットコンロなど、災害時の備蓄管理をしています。AEDを導入しています。	対応できていない規定の避難訓練を早急に変更を実施する事を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご本人のお話やご家族を通して、お一人お一人の個性や生活しておられた環境などを把握し、日常において特に職員が会話する際には不快な気持ちを抱かせてしまう事がないよう努めています。	事業所の目標に「勝手に解釈しない、相手のペースで聴く、否定しない」を掲げ、誇りやプライバシーを損ねないよう注意を払っています。職員間での利用者の連絡はキッチン内などで小声で行っています。利用者の呼称は、苗字に「さん」付けを励行しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	常にご本人のご希望を伺った上で、生活の支援をすることに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	決まった時間に決まった事をするのではなく、各入居者の方のその日、その時間の状態やペースに合わせて、ご希望を伺った上での外出や趣味の活動を支援するようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	個々の支援の必要性に応じて、季節気候の話題の提供、行事や気温などを踏まえた声掛けを行っています。また、出来るだけご本人の意向を尊重し、それに合わせた支援を行っています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食後の片づけは利用者と一緒にすることが日課となっています。行事食やお楽しみメニューを取り入れたり、工程を分担し一緒に調理をしています。	食事に変化をもたらす目的で2社の配食業者の献立と食材を1ヶ月交代で利用し提供しています。利用者は職員と一緒に下ごしらえや食器拭きなどを行っています。たこ焼き作りなどの「食事レクリエーション」や、寿司の出前を取るなど、食事を楽しめるようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立の栄養バランスに配慮し、個々の摂取量を残食糧から大まかに把握することに努めています。水分摂取量については、午前中、午後3時まで、一日終了時と云うように正確に把握して、補水の提供を含めて管理するようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後には必ず口腔ケアへの誘導を行い、個々の必要性に応じて、職員が必ず声掛け、見守り、介助を実施しています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄記録表をもとに、時間が空いている場合には尿意が無い時にも無理のない誘導を心掛けています。便意が無い場合にも同様にトイレへお誘いしています。それぞれの必要に応じた、見守り、一部介助、全介助を行っています。	利用者の排泄パターンを把握して必要な人に定時誘導をしています。夜間はポータブルトイレを使用する人もいます。入居後に生活のリズムが整い、おむつ使用からリハビリパンツ使用に改善した人がいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	日中の排泄記録の確認、日中から夜勤帯への排泄記録の確認は徹底して行っています。訪問診療医と連携し、個々の排泄パターンを把握した下剤の調整を行っています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴はリラックスできる楽しい時間であるように個々の好みに応じた浴室、室温、湯温などに配慮しています。また、異性介助を好まない入居者の方には配慮をするよう、入浴担当などの工夫をしています。	機械浴の設備があります。同性介助を基本に利用者は概ね週2回入浴しています。入浴を好まない人には時間を変えて再度声掛けするなどの工夫をして入浴を促しています。現在は見守りや一部介助の人が多く、のんびりと寛ぎながら入浴を楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々に合わせた生活支援は出来ていると思います。昼夜逆転にならないように日中の活動などを工夫する努力をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は診療情報と処方箋に添って正確な把握をしています。ご本人が薬の必要性を理解できていない場合があるため、コミュニケーションが取りづらいことがあります。常に正確な服薬を実施し、確認するよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居者様ができるところはご自身で行って頂き、見守りを行っております。嗜好品は個別に用意しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご家族の協力で外出されることを支援しています。日常では職員がマンツーマンで外気浴や散歩をしています。年に数度は減多に行けない場所へドライブするなど心掛けています。	コロナ禍での開設という事もあり、思うように外出ができない状況ですが、コロナ感染状況を見極めて車を使用して神社に出かけています。家族の協力のもと墓参りをした人や、自宅に日帰りした人がいます。感染者拡大時は駐車場での外気浴や散歩をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々の管理が難しい入居者の方については、事務所のお預り金として管理しています。入金が気になる方とは一緒に銀行へ行き、ATM操作を支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人のご希望で電話が掛けられるようにフロアの電話機をお使い頂いています。他の入居者の方々への配慮やプライバシーの問題もあるので、通話は居室内でして頂くようお願いしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室、浴室、洗面所、トイレは常に清掃と消毒を行って清潔で過ごしやすい環境作りを心掛けています。また、食堂には入居者の方と一緒に作成した季節の飾り付けを行い、玄関外では季節の花々を育てて楽しんでいます。	コロナ感染症対策で窓の開閉に注意しながら温湿度管理をしています。ブラインドで採光を調整し、利用者が居心地良く過ごせるようにしています。ユニットの出入り口などに正月のしめ飾りをしたり、リビングに書き初めを展示しています。駐車場の一角の花壇に花や野菜を植えて季節を感じられるようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者の方々の性格などに配慮し、また、気の合う人、合わない人のコミュニケーションなどを注意深く観察して状況に合わせた食卓の席替えを行っています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	定期的に居室に伺って、ご本人と一緒に衣類や調度品の整理整頓に努めています。物品の移動や処分についてはご本人やご家族の意向を確認し、必ず了解を頂いたうえでを行っています。	事業所が居室に備えているものは、洗面台、クローゼット、エアコン、照明器具、ベッドです。利用者は、防炎カーテン、テレビ、衣装ケース、仏壇、写真などを持ち込み、利用者それぞれが居心地よく過ごせるようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者のできることやわかることに配慮しながら安全を心掛けて見守り、支援を行う様にしています。		

事業所名	アクア陽光台グループホーム
ユニット名	2F

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	目指す姿として『私たちは私たちを含め、利用者・家族・（この施設の）関係者・地域の人、すべての人に丁寧に対応する』を事務所に掲示しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍の中、地域交流は積極的にできておりません。つながりが途切れないように自治会長や民生委員、地域包括センター、近隣の福祉施設等の関係者と不定期ですが情報交換しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	問い合わせに対してはわかり易い言葉で説明をしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	書面会議での開催となっています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	生活支援課、福祉基盤課、高齢・障害者相談課などと連絡を取りながら、成年後見制度や感染対策を進めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	拘束は犯罪であるという認識し、日々ケアに取り組んでいますが、講習会や勉強会の機会が少なく学んだ情報や知識を施設内で共有する仕組みができていません。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待につながる恐れのある不適切なケアについて資料を配布し、情報共有できる様努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	支援を必要とされる利用者様の状態や様子を見過ごしてしまうことのないように、高齢・障害者相談課の担当者の方々へのご連絡とご相談を適宜行い、問題が滞留しないよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	難しい内容も包括されているので、誤解を生じない様に納得がいくまでお話しさせて頂いています。また、必要に応じて専門部署の担当より、時間を掛けてご説明しご理解頂けるよう努めています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	電話や面会時に忌憚ないご意見を伺い、職員共通の認識を持つことに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のフロアー会議では、前以て全員から意見を寄せてもらい検討をし、リーダー会議に上がった項目については職員へのフィードバックを行っています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は個々の職員とのコミュニケーションを図り、定期的あるいは必要に応じた面接を行って、職場での問題や不安の解消に努めています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	本社教育研修課が中心となり、管理者研修やリーダー研修を計画し開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	相模原市グループホーム連絡会と神奈川県認知症高齢者GH協議会に加入しています。参加や相互交流にて得た情報を、法人内5施設の事例検討会にて共有しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面談により状態を把握し、ご本人やご家族の要望などを聞き取りして、ご本人には安心して生活して頂ける様に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前面談により状態を把握し、ご本人やご家族の要望などを聞き取りして、ご本人には安心して生活して頂ける様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人やご家族との話し合いの中で、先ずどのような支援が必要なのかを見極め、サービス内容の調整を行い、提供できる様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	支援をしてあげていると云う意識を持たず、家事等を協力し合っ行って、他者とも和やかに生活できる様に心掛けています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の面会時にはご様子などを丁寧にお伝えし、また質問にも応じる等、信頼関係を築けるように努めています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族を通してご本人の生活歴等を伺いながら、ご本人に寄り添った支援を心掛けています。また、感染対策のご協力をいただきながらご家族との外出の機会を支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の関係性について、スタッフで共有し注意深く見守りを行い、円滑に生活が営めるように努めています。また、個別にお話しを伺い、孤立しない様に支援することを心掛けています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	お手紙やその他の機会をとらえて、ご本人の様子などを伺い、ご家族のお話し相手、ご相談の受け皿になるよう努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の関わりの中で、会話などコミュニケーションを密に取りながら把握に努めています。また、ご家族や関係者からの情報を得る事も大切に受け止めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人はもとよりご家族の協力を頂きながら、継続的な把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者お一人お一人の生活リズムを大切に、日々変化する状態の把握に努めています。できる事、できない事を正確に理解し、できる事への働きかけに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人やご家族の思いと意見を正確に聞き取り、職員全体での意見交換やモニタリングを行い、カンファレンスを実施しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	職員の気づきやご本人の状態の変化は逐次、支援経過記録に記載して朝礼時に職員間の情報の共有を図り、フロア会議においては意見交換を行って介護計画の見直しの資料としています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人の状態やご家族の意向に配慮しながら臨機応変に対応できるように、スタッフも柔軟に対応することに日々努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の行事への参加、隣接した農園活動など、ご本人が積極的に参加できる機会を捉えて、支援に努めています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	施設の協力医の往診のほか、必要に応じて、ご本人やご家族の希望に添った受診や通院への対応を行っています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に一度、訪問看護師に日常の個々の状態や変化を報告書し、健康管理、医療面での相談、助言、対応を行って貰っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関への情報提供をしっかりと行い、またご家族とも回復状態やご本人の様子について情報交換をしながら、速やかな退院支援に結びつくよう支援しています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人やご家族の意向を踏まえ、医師、看護師、介護職員が連携を取りながら、安心して且つ納得のいった最期を迎えられる様に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	AEDを設置しました。研修や消防署の協力による訓練を通し、救急手当や蘇生術の研修を行っています。全ての職員が落ち着いて緊急時の対応ができるよう努めています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアルの整備、防災研修会、訓練を通して職員全体の意識を高めると共に、災害時用備蓄品を確保しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご本人のお話やご家族を通して、お一人お一人の個性や生活しておられた環境などを把握し、日常において特に職員が会話する際には不快な気持ちを抱かせてしまう事がないよう努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	常にご本人のご希望を伺った上で、生活の支援をすることに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	決まった時間に決まった事をするのではなく、各入居者の方のその日、その時間の状態やペースに合わせ、ご希望を伺った上での外出や趣味の活動を支援するようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	個々の支援の必要性に応じて、季節気候の話題の提供、行事や気温などを踏まえた声掛けを行っています。また、出来るだけご本人の意向を尊重し、それに合わせた支援を行っています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食後の片づけは利用者と一緒にいることが日課となっています。行事食やお楽しみメニューを取り入れたり、工程を分担し一緒に調理をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立の栄養バランスに配慮し、個々の摂取量を残食糧から大まかに把握することに努めています。水分摂取量については、午前中、午後3時まで、一日終了時と云うように正確に把握して、補水の提供を含めて管理するようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後には必ず口腔ケアへの誘導を行い、個々の必要性に応じて、職員が必ず声掛け、見守り、介助を実施しています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄記録表をもとに、時間が空いている場合には尿意が無い時にも無理のない誘導を心掛けています。便意が無い場合にも同様にトイレへお誘いしています。それぞれの必要に応じた、見守り、一部介助、全介助を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	日中の排泄記録の確認、日中から夜勤帯への排泄記録の確認は徹底して行っています。訪問診療医と連携し、個々の排泄パターンを把握した下剤の調整を行っています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴はリラックスできる楽しい時間であるように個々の好みに応じた浴室、室温、湯温などに配慮しています。また、異性介助を好まない入居者の方には配慮をするよう、入浴担当などの工夫をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々に合わせた生活支援は出来ていると思います。昼夜逆転にならないように日中の活動などを工夫する努力をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は診療情報と処方箋に添って正確な把握をしていますが、ご本人が薬の必要性を理解できていない場合があるため、コミュニケーションが取りづらいことがあります。常に正確な服薬を実施し、確認するよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居様ができるところはご自身で行って頂き、見守りを行っております。嗜好品は個別に用意しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご家族の協力で外出されることを支援しています。日常では職員がマンツーマンで外気浴や散歩をしています。年に数度は滅多に行けない場所へドライブするなど心掛けています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々の管理が難しい入居者の方については、事務所のお預り金として管理しています。入金が気になる方とは一緒に銀行へ行き、ATM操作を支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人のご希望で電話が掛けられるようにフロアーの電話機をお使い頂いています。他の入居者の方々への配慮やプライバシーの問題もあるので、通話は居室内でして頂くようお願いしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室、浴室、洗面所、トイレは常に清掃と消毒を行って清潔で過ごしやすい環境作りを心掛けています。また、食堂には入居者の方と一緒に作成した季節の飾り付けを行い、玄関外では季節の花々を育てて楽しんでます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者の方々の性格などに配慮し、また、気の合う人、合わない人のコミュニケーションなどを注意深く観察して状況に合わせた食卓の席替えを行っています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	定期的に居室に伺って、ご本人と一緒に衣類や調度品の整理整頓に努めています。物品の移動や処分についてはご本人やご家族の意向を確認し、必ず了解を頂いたうえでを行っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者のできることやわかることに配慮しながら安全を心掛けて見守り、支援を行う様にしています。		

2022年度

事業所名 アクア陽光台グループホーム

作成日： 2023年 6月 1日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	I-4	新型コロナウイルス感染対策の為、地域との交流活動が限られていた。	利用者が地域とつながりながら安心して暮らし続けられるよう、地域づくりを行う一員として関係を深めてゆく。	①対面式運営推進会議の定期再開	12ヶ月
2				②認知症の人の理解や支援方法など事業所の情報発信を行う。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月